

## 区内医療関係者のインタビュー調査結果 概要

### 1. 調査の目的

区の医療施策の方向性を検討するにあたり、区が持っている医療環境に関する認識や課題が、医療機関等の現場の感覚と乖離していないかを把握することを目的として、区内の医療機関等に従事している方を対象にインタビュー調査を実施した。

### 2. 調査の概要

主に、区内の医療機関において、患者の流れがどこで滞っているか、また機能ごとの医療機関の過不足状況について現場の声を聞いた。

#### (1) 調査対象

- ・練馬区内の医療機関等に従事している方 計 28 人

#### (2) 調査方法

- ・練馬区医療環境整備課によるインタビュー（対面式）

#### (3) 調査期間

- ・平成 28 年（2016 年）12 月～平成 29 年（2017 年）1 月

### 3. インタビュー結果抜粋

	主な意見
病床機能に関すること	
高度急性期・急性期機能について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順天堂大学医学部附属練馬病院は、病床稼働率が高く紹介が難しい時がある。</li> <li>・順天堂大学医学部附属練馬病院や練馬光が丘病院が 3 次救急レベルの機能を持ち、高度な医療を必要とする患者にトリアージや処置をした後、他の急性期病院に転送する体制をとることで、効率的な医療が提供できるようになるのではないかと。</li> <li>・練馬区在宅医療連携コーディネーター事業の中で、医師会が中心となって後方支援病床<sup>1</sup>確保のための事業を行っている。そのおかげで、後方支援病床が見つからない事態は減ってきている。</li> </ul>
回復期機能について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回復期リハビリテーション病棟が足りていない。</li> <li>・回復期リハビリテーション病棟は、対象となる疾患や入院期間が限られ、リハビリを希望する患者すべてに対応できないことがある。</li> <li>・在宅医療へ移行する前のリハビリを提供する機能が区内に足りない。</li> <li>・地域包括ケア病棟はまだ足りていない。</li> <li>・レスパイト<sup>2</sup>を受けられる病床も足りていない。</li> <li>・うつ病や統合失調症、認知症を患っている精神身体合併症の受け入れ先がない。</li> <li>・難病の患者の受け入れ先がないことも課題である。</li> </ul>
慢性期機能について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性期の病床の稼働率は高く、練馬区の慢性期の病床に対する入院患者の需要はあると認識している。</li> <li>・慢性期の病床は足りていない。区外の病院へ患者を送ることが多い。</li> <li>・高齢者が増加しているため、今後慢性期の病床を確保できるか危惧している。</li> </ul>

<sup>1</sup> 後方支援病床…主に在宅療養中の患者の容態が変化した場合に、速やかに入院治療の支援を行う病床

<sup>2</sup> レスパイト…在宅介護などで介護者が日々の介護に疲れを感じ、介護不能となることを予防する目的で短期間入院すること

	主な意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練馬区の慢性期の病院は、終の棲家としての使われ方が多いように認識している。患者の諸事情（家庭の介護力・経済的理由）から在宅療養を受けられない患者が入院している。</li> <li>・うつ病や統合失調症、認知症を患っている精神身体合併症の患者を受け入れることに苦勞している。</li> <li>・がん患者の緩和ケア<sup>3</sup>を専門に行う、緩和ケア病棟がないのは練馬区の課題である。</li> </ul>
救急医療に関すること	
救急医療について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内の病院の病床稼働率<sup>4</sup>が高く、救急搬送患者を受けられる病院が少ないことが課題。</li> <li>・練馬区内に3次救急医療機関<sup>5</sup>があれば、より安全に重症患者の搬送が実現できると思う。人口70万人に対して1施設程度は必要だと考えている。</li> <li>・ウォークインで来院する患者が多く、より緊急性の高い救急車の受け入れを断らざるを得ないケースがある。</li> <li>・うつ病や統合失調症、認知症といった患者は、受け入れ先がなく困る。複合疾患を持っている患者の搬送先が決まりにくい。</li> <li>・認知症患者が救急搬送された場合の事務処理に時間を要している。</li> <li>・周産期・小児救急は、板橋区や杉並区等の区外の病院に搬送している。</li> </ul>
在宅医療・介護に関すること	
在宅医療について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養支援診療所に求められる24時間対応の条件が、在宅医療普及の課題と考えている。</li> <li>・患者から夜中に呼び出されることは多くないため、イメージほど労力が必要であるとは感じていない。</li> <li>・精神科の訪問診療の需要が多くなっている。</li> <li>・信頼できる訪問看護ステーションとの連携が、在宅医療・訪問診療を進めていくために重要な要素である。</li> <li>・練馬区内の在宅医療の後方支援の意思がある病院と在宅医療・訪問診療を行っている診療所が一堂に会して、在宅医療等に関する意見交換や意識のすりあわせを行う場があってもよい。</li> </ul>
介護について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練馬区の介護施設・介護サービスの整備状況は、他区と比べても充足していると思う。</li> <li>・在宅復帰については、家庭の事情から自宅よりも介護施設等への復帰が多いように感じる。</li> <li>・訪問看護ステーションは人手不足が深刻化しており、疲弊している印象がある。</li> <li>・最近では、医師の対応が手薄になりがちな夜間・休日は対応できない訪問看護ステーションも出てきている。</li> <li>・介護を行うヘルパーが若年化しており、介護を受ける方との年齢差からジェネレーションギャップが生まれている。</li> </ul>

<sup>3</sup> 緩和ケア…生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメント対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ

<sup>4</sup> 病床稼働率…病院のベッドの空き状況を示す割合で、稼働率が高いと新たに患者を受け入れることが難しい。

<sup>5</sup> 3次救急医療機関…3次救急患者（心肺停止、大やけど、脳卒中など生命の危険に瀕している状況の患者）を受け入れる医療機関